

「ICT」と「IoT」とは

10月20日（金）

教育の世界で最近よく耳にするようになった言葉が「ICT」と「IoT」です。どちらもインターネットや機器に関わる言葉です。ICTとはInformation and Communication Technology（情報通信技術）の略です。ITとほぼ同じ意味合いですが、特に「活用すること」を重視する場合に使われることがあります。一方、IoTはInternet of Things（モノのインターネット）の略です。エアコンや冷蔵庫、スピーカー、照明といったモノをスマートフォンで操作したり、モノの使用状況をスマホで確認したり。総務省の情報通信白書では、IoTでつながるモノを「IoTデバイス」と呼んでいます。IoTのある生活をイメージしてみると以下ようになります。起床時刻、照明が明るくなって自動で遮光カーテンが開きます。スマートスピーカーに「テレビつけて」と言うと、テレビからは交通情報や天気予報などが流れてきました。お子さまも起きてきて、それぞれ学校や会社に向かいます。会社に向かう途中、鍵を閉めたか不安になったらスマホで施錠を確認。家の中ではロボット掃除機が掃除をしています。夕方、お子さまから「家の鍵開けて」という連絡が……。鍵を家に忘れたとのことで、アプリを操作して解錠。スマホで冷蔵庫の中身も確認できます。食材を買って帰宅すると、お子さまはタブレットで課題を終え、提出したところでした。エアコンの自動制御で室内の温度も快適です。私たちが子供の頃、漫画や映画で見ていた世界が現実のものとなりました。しかも、コロナによってそのスピードが増しました。社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」も到来し、学校にも1人1台のパソコンが配られました。ICT技術の発展のもと、めまぐるしく変わる「予測困難な時代」を生きる子どもたちには、幅広い視点で将来を見つめてほしいと思います。そのためには、学校はもとより家庭においても子どもの興味や関心を広げる機会をつくるのが大切です。とは言うものの、パソコンを使いこなせればすべてが解決するわけではありません。ベースとなるのは、やはり基礎学力でありコミュニケーション能力など様々な人と接する力です。来週から文化祭11月4日（土）に向けた取り組みも始まります。友だちと相談しながら一つのものを完成させる喜びを感じる日や意見が合わず落ち込む日もあると思いますが、それらの経験すべてが「予測困難な時代」を生き抜く原動力になるのです。まだまだコロナ禍の中ではありますが、素晴らしい歴史と伝統ある青垣中学校の文化祭となることを期待します。ある人の言葉を借りると「いつもと違う年だからこそ、一層思い出多い文化祭にしてほしい」です…。本日3年生が文化祭のステージ準備をしてくれました。いよいよ文化祭モード突入です。

